



	機能	メリット
入力	航空写真(直下型、斜め型)および地上写真	有人・無人を問わず、航空または地上プラットフォームからあらゆる角度で撮影した画像を処理します。
	任意のカメラ(コンパクト、一眼レフ、マルチスペクトル、GoPro)で撮影した.jpgまたは.tif画像データ	小型から大判、一般用から特殊カメラまで、任意のカメラで撮影した画像が使用できます。
	同一プロジェクトで複数のカメラに対応	異なるカメラで撮影した画像を用いてプロジェクトを作成し、それらをまとめて処理することができます。
機能	テンプレートの選択	必要な出力に応じて異なる処理テンプレートを使用し、画像の処理と出力の生成を最適化します。
	出力座標系の選択	最適なワークフローを保証するために、任意の座標系でプロジェクトを処理します。
	マップビュー ダッシュボード	データセットの地理的な位置を表示します。
	距離と面積の測定	正確な計画の作成のために距離や面積を測定します。注釈として測定値を保存することもできます。
	体積測定	より正確な敷地調査のため、DSMに基づいた体積測定ができます。
	標高プロファイル	DSMに基づき標高プロファイルを生成します。各点の標高情報が表示されます。
	注釈	違う種類の注釈(マーカー、検査、ライン、エリア、円、またはポリゴン)を追加すると、より価値のある実用的な情報を伝えるのに役立ちます。 注釈は.csv、GeoJSON、Shapefiles、.dxfなどのさまざまなファイル形式でインポートおよびエクスポートできます。
出力	バーチャル点検機能	3Dモデルやその作成に使用された画像上でのバーチャルな検査が行えます。特定の画像にズームインしてピン留めし、画像に詳細情報や次のアクションをコメントとして残すことができます。検査結果は注釈として保存できます。
	マルチスペクトル処理と NDVI 表示	マルチスペクトルデータセットのより高度な分析を実現するための NDVI マップを自動生成します。インデックスのヒストグラムが既定で表示されます。
	共有	注釈、測定値、標高プロファイル、体積、プロジェクトをチームや関係者と共有することで、共同作業やレポート作成に役立てます。
	Pix4D オートタグ	"Pix4D オートタグを使用した GCP およびタイポイントの自動検出です。 PIX4Dcatch からアップロードされたプロジェクトでのみ利用できます。"
	既存の結果のインポート	オルソモザイクと DSM を.geotiff 形式、点群データを.las および.laz 形式、3D メッシュを.obj ファイル形式でインポートできます。
サポート	2D出力結果	.GeoTiff 形式で出力される直下型オルソモザイク。 .geojson、.csv、.shp 出力形式での 2D ベクトル。
	2.5D出力結果	.GeoTiff 出力形式での DSM または DEM。
	3D出力結果	.laz 形式での出力される 3D 点群です。 .fbx および.obj 形式で出力される 3D テクスチャ メッシュです。 .ply 形式で出力される 3D ガウス スプラッティングです。PIX4Dcatch からアップロードされたプロジェクトでのみ利用できます。 .pdf 形式の品質レポートです。
多言語	Trimble Connect	選択したファイルを Trimble Connect プラットフォームにエクスポートします。
サポート	個人メール	ライセンス保有者は、メールでサポートに連絡できます。
	コミュニティ	誰でも投稿可能なコミュニティです。
多言語	対応言語	英語、スペイン語、イタリア語、日本語、韓国語、フランス語、ポルトガル語(ブラジル)、タイ語、ドイツ語